

# 第1部 講演 ぜひ使ってほしい、 防災科研の新たな情報プロダクツ

ハザード（自然現象）の観測データは、そのままでは理解や活用ができない場合があります。例えば、豪雨災害の現場では、降雨の情報に加え、河川や地形の情報、建物や道路の情報などを組み合わせてはじめて対策を立てることができます。リアルタイムの観測情報などの生のデータを利用者のニーズに合わせて活用できるように知的処理された情報が「情報プロダクツ」です。

防災科研では研究成果の社会実装を推進すべく、皆様に役立つ情報として提供できるよう研究成果の「情報プロダクツ」化に取り組んでいます。

そして、その中でも、今回の成果発表会の第1部では、昨年相次いで発生した「線状降水帯」の研究と今後の展望、日本を代表する火山データを一元化して共有する「JVVDNシステム」の構築・運用、2020年8月に公開した地震による被害の予測、震度、確率やライフラインの復旧にかかる期間を迅速に診断できるデジタルコンテンツ「地震10秒診断」、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会での利用が期待される首都圏の局地的な激しい気象（ゲリラ豪雨、強風、雷、ひょう）の発生状況をいつでも誰でもチェックできるシステム「ソラチェック」について、各研究者が講演しました。

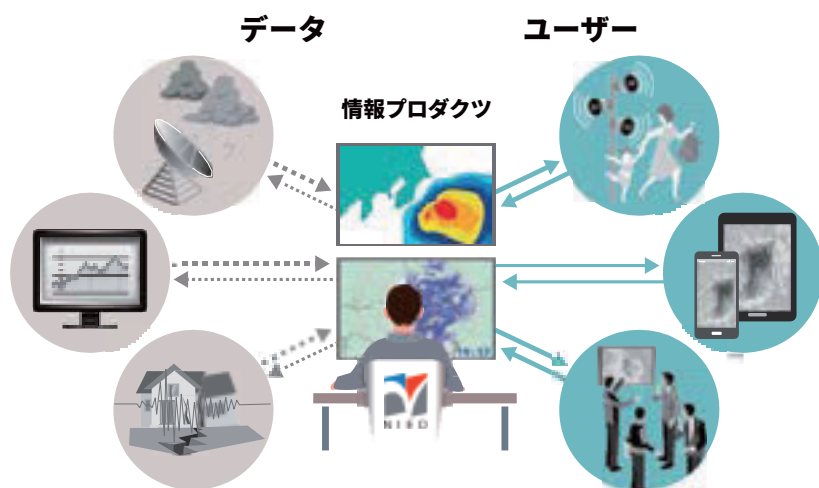


図 情報プロダクツのイメージ

成果発表会の動画はこちら↓



<https://www.bosai.go.jp/info/event/2020/seika/index.html>